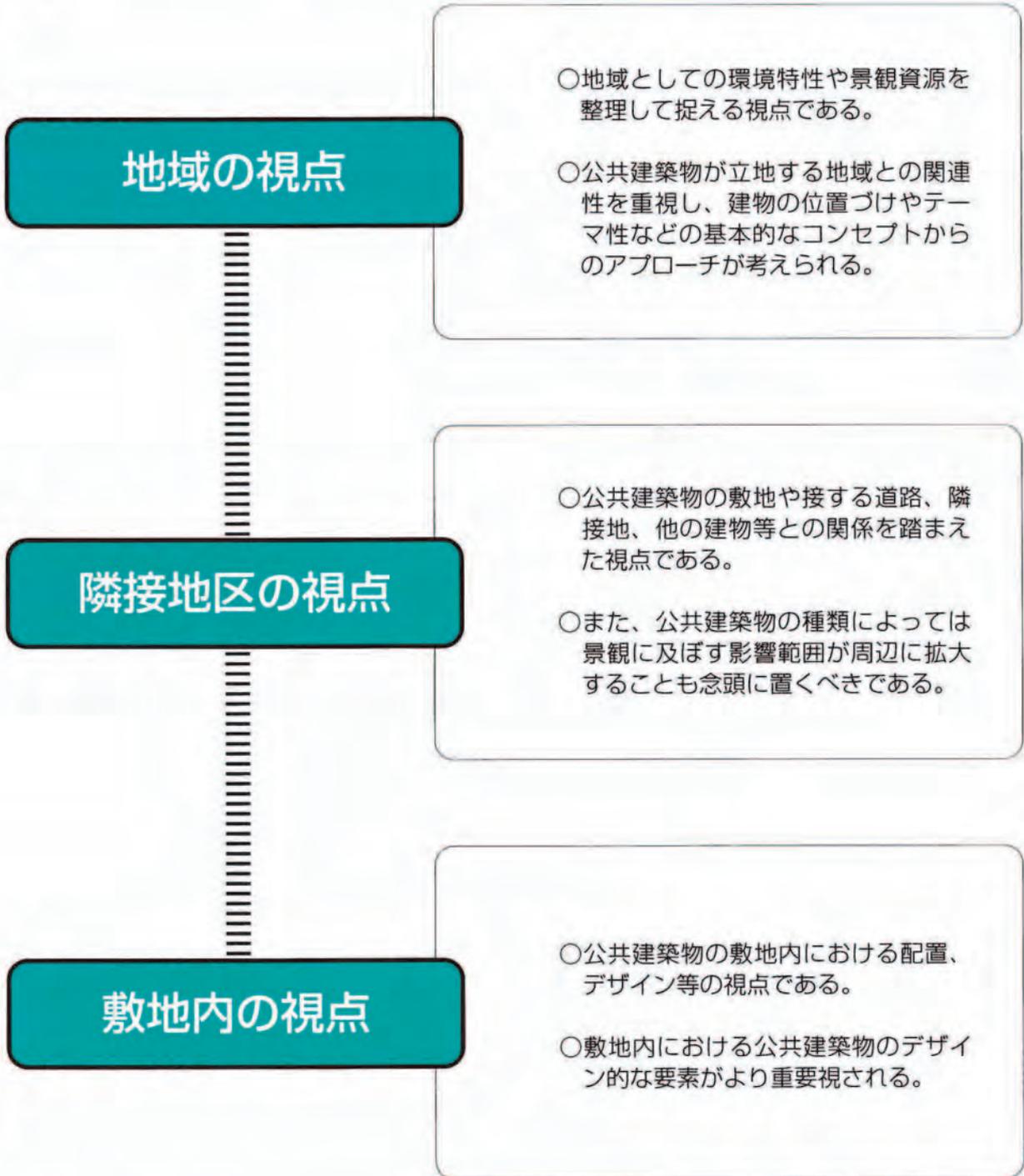


5 景観の視点

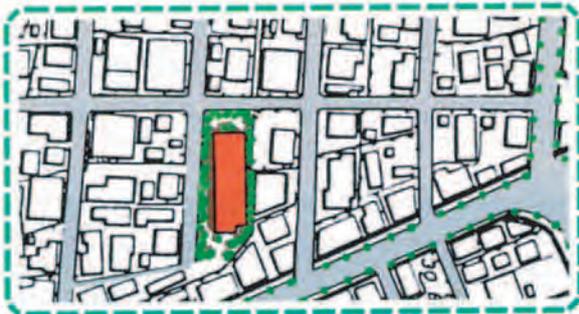
公共建築物と景観との結びつきを考える場合、その敷地と建物が置かれている環境をどういった視点で捉えるかということを整理する必要がある。この捉え方に共通する考え方として「地域の視点」、「隣接地区の視点」、「敷地内の視点」の3つの視点があり、それぞれの視点から環境を捉える。



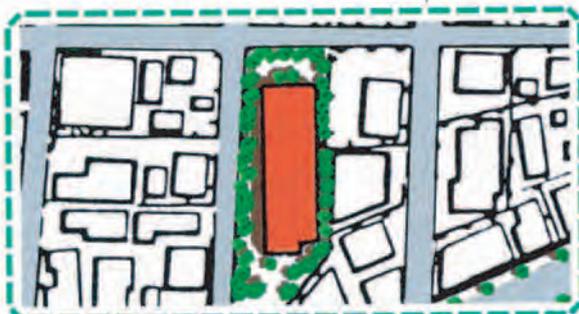
※上記3つの視点は、景観の見え方（遠景、中景、近景）と密接な関係がある。一般的に遠景は十分に遠い距離をおき、周辺一帯の環境の中で施設の特徴が認識される範囲で、中景は輪郭や屋根の形状が十分捉えられる範囲であり、また、近景は沿道の景観として捉えられる範囲であると考えられる。



- 公共建築物を包む総合的な視点で景観の形成を図っていく。
- 具体的な景観として捉えるのは容易ではないが、遠景のなかで施設を捉えた場合の配慮が重視される。



- 隣接する景観との複合的な視点で捉える必要がある。
- 周囲の景観を形成するうえで対象となる建物を中景のなかで見え方に配慮する。



- 敷地内の建築デザインにおける、個別的な視点をつなげる配慮が必要である。
- より身近なものとして、近景からの見え方についての工夫が要求される。

※視点が対象となる建物に近づくにつれ、周辺の景観を形成する空間や建物、道路や地形等との関係が密接に浮かび上がってくる。
つまり、遠景から近景への視点の移動によって徐々に建物の各デザイン要素が景観に及ぼす影響が明確になってくる。

6 デザインの基本

公共建築物の景観形成において地域景観の誘導は重要な役割りの一つであるが、地域景観は様々な要素が複合的に組み合わせられて形成されている。このため、扱うべき領域も建築物そのもののいわゆるデザインから周辺環境との関係におけるデザインまで広がりがあり、目標とする景観の姿も施設の性質や周辺環境の状況に対応して多様である。デザインの基本は、景観形成に関わる基本的な考え方を整理し、設計における自由な発想を拘束することなく、施設整備の参考となるマニュアルの重要な柱として位置づけている。

ここでは、デザインの要素として7項目を取り上げ、それぞれの視点から考え方と配慮事項を整理し、また参考となる事例写真によって解説を行っている。

これらデザインの基本は、原則として様々な環境タイプの地域において共通する事項であるが、実施の際には後述する「応用編 1. 環境タイプ指針」と総合的な検討を行う必要がある。

【1】位置

○考え方○

- 敷地の選定は、結果として立地する環境を設定することになる。また、施設の配置や形態、意匠、色彩を検討する際の前提条件を決めることになり、建築物の景観形成において重要である。
- 位置については、施設の見え方や配慮する点を立地環境との関係で整理する必要がある。



(県工業技術センター、具志川市)

● 配慮事項 ●

- ① 背後山地への眺望を遮らない位置とする。
- ② 海への眺望を確保する。
- ③ 沿道と緩やかにつながる配置を構成する。
- ④ 地域のゆとり空間をつくる。



① 背後の山々の稜線を取り込みながら、眺望を確保する配慮が感じられる。
(県営宇茂佐団地、名護市)



② 地形になじませた低い構えとし、主要な視点場からの海への眺望を十分に確保している。
(平良市中央公民館、平良市)



③ 沿道の生け垣、駐車場等と建物の距離が緩やかに構成されている。
(県立公文書館、南風原町)



④ 人工地盤を緑化し建物と一体化した空間が地域に開放されている。
(浦添市民会館、浦添市)

[2] 形態

○考え方○

- 形態とは屋根の形、壁面の形および屋根と壁面のバランス的な形のことである。屋根は、建築物の印象を決定づける重要な要素である。戦後の陸屋根に加え、近年では沖縄の伝統建築様式である赤瓦の勾配屋根の採用も多く、また、曲線を用いた屋根も増えている。このように多様化する屋根の形ではあるが、隣接する敷地の土地利用や環境への配慮が必要である。つまり、良好な沿道景観のみられる場所にあっては、周辺建物とのバランスを考えた高さや形を採用し、地域によって景観の誘導が望まれる場合は、その場の景観目標への配慮が必要となる。
- 壁面については、構成要素である壁、柱、窓等のボリューム、バランスが重要となる。花ブロック等を活用して涼やかな印象を与えたり、ベランダの形態に工夫したりといったも配慮が必要である。
- 屋根と壁面のバランスおよびボリューム感も重要である。大規模になると、屋根壁を分節型にして景観に変化を与えたりすることも検討する必要がある。
- 公共施設の多くは住民が利用し、また、規模的に一般建築物より大きくなることなどから地域の象徴となることが多い。よって、地域住民が近づきやすさ、親しみやすさを感じ、心のよりどころとなることや、地域の歴史・文化の採用による象徴性への配慮が必要となる。



(壺屋焼物博物館、那覇市)

● 配慮事項 ●

- ① 周辺の家並みとの調和を図り、まとまりのある形態を工夫する。
- ② 緑になじみ、また明るく開放的な施設づくりに努める。
- ③ 個性やシンボル性を発揮する形態を検討する。
- ④ 沿道景観になじみ、高める形態を工夫する。



① 低層の住居地区にあり、ボリューム感を抑え、周辺家並みと馴染んだ屋根形態となっている。
(具志川市立図書館、具志川市)



② 周囲の緑地に対して違和感がなく、またフェンスのない開放的な印象が安心感を与えている。
(浦添消防署、浦添市)



③ 地域の町並みをモチーフとした小屋根の配列、陰影のある壁面の構成が印象的である。
(名護市役所、名護市)



④ 沿道の並木と自然につながる緑地と建築物の形態が沿道景観を高めている。
(那覇地方裁判所、那覇市)

[3] 意匠

● 考え方 ●

- 建築物の意匠では、様々な建築様式および風合い等の質感等について工夫が大切である。
- 大規模建築物の持つ圧迫感や威圧感を軽減するために、壁面をタイル貼りにしたり目地や凹凸をつけることで柔らかな表情がつけられる。また、花ブロックを採用したり開口部の意匠を工夫することで陰影をつくりだし、そのコントラストが建物の表情を印象づける。
- 地域によっては、伝統建築様式や近代建築様式など、周辺の建築様式との調和を図る必要がある。
- 屋根については、寄せ棟様式は全体にまとまりや安定した形となり、また、分節化することによって威圧感を軽減し、安心感を感じさせるなどが考えられ、意匠の工夫が必要である。
- 高架水槽等の付属施設を屋根の中に取り込んだり、分割した小屋根の一つにまとめて納める等の工夫により、その存在を目立たせず、全体的にすっきりした印象を与えるような配慮に努める。



(城西小学校、那覇市)

● 配慮事項 ●

- ① 地域にふさわしい落ち着いた雰囲気を感じさせる意匠とする。
- ② 地域に応じて歴史的・伝統的意匠を採用する。
- ③ 立地環境との調和を図りつつ、印象的な屋根意匠を工夫する。
- ④ 光のコントラストで、壁面の表情をつくる。



① 緩やかなスロープをもつ正面意匠が地域にふさわしい、落ち着いた雰囲気を感じさせる。
(首里厚生園、那覇市)



② 樹林に見え隠れする伝統意匠の赤瓦屋根伏せが歴史的地区に馴染んでいる。壁面意匠の工夫により圧迫感を感じさせない。
(県立芸術大学、那覇市)



③ 低く構えほとんどサトウキビ畑に隠れるが、ピラミッド型の屋根意匠が印象を強くしている。
(平良市立博物館、平良市)



④ 陰影をつくる窓意匠が建築物の表情をつくる。
(宜野湾市役所、宜野湾市)

[4] 色 彩

○ 考え方 ○

- 色彩は形態とともに建築物の印象を決定づける重要な要素であり、意匠と深く結びついている場合もある。また、色の種類、色の持つイメージや効果は多様であり、光の具合で変化の幅も広い。周辺景観との調和において色使いは重要な作業となる。
- 色の調和の考え方については3つあり、色相やトーンを同一にする方法、類似させる方法、対称となるように使う方法である。複数の色を使用したり、周辺との調和を図るために基調色、配合色、強調色の効果に配慮することが重要である。
- 建築物の色彩の決定においては、周辺環境の色構成との組み合わせや建築物の陰影による効果を考慮し、コントラスト効果やグラデーション効果などの演出も検討する必要がある。
- 建築物に関する色彩についての課題は、塗料の剥離や退色、カビの発生によるものである。このため、汚れにくい材料の使用や美しく保つための維持・管理を心がけることが重要である。



(沖縄県庁、那覇市)

● 配慮事項 ●

- ① 落ち着いた色彩を基調とし、周辺環境になじむ色使いとする。
- ② 柔らかい色使いを工夫する。
- ③ 形と共鳴する色を採用する。
- ④ コントラスト効果やグラデーション効果を発揮する色の構成を工夫する。



① ソフトな色彩を基調とすることで、周辺環境になじんでいる。
(北部合同庁舎、名護市)



② クリーム色のソフトな色使いにより建物全体の量感を軽減している
(県立看護大学、那覇市)



③ 波をイメージさせるうねる大屋根の緑青が空と呼应し、映えている。
(沖縄コンベンションセンター、宜野湾市)



④ 大空に対峙した赤瓦屋根とベランダ手すりの青色がコントラスト効果を発揮している。
(美咲養護学校、沖縄市)

[5] 素 材

○ 考え方 ○

- 素材は意匠や色彩と深く関係し、その醸し出す風合いは、建築物を印象づけることが多い。建築物が長く美しさを保つためには、汚れにくいもの、耐久性に優れたものや退色の少ないもの、退色しても経年の変化が味わいとなるような素材を検討することが重要である。
- 素材は、地域で産するものや縁のあるもの、あるいは好まれているものを使用することで、施設の地域らしさを表現し、地域の特徴ある景観を形成するのに有効となる。



(小禄南小学校、那覇市)

● 配慮事項 ●

- ①素材と意匠の調和を図る。
- ②煉瓦、石材、金属材等、素材の良さを生かす使い方を工夫する。
- ③耐久性及び維持管理に優れた素材を活用する。
- ④地域性や風格を感じさせる屋根形態に瓦を使用する。



① コンクリート打放しの表情は壁面意匠と効果的に調和している。
(那覇市総合福祉センター、那覇市)



② 赤い煉瓦が、植え込みの緑を効果的に引き立て、明るい雰囲気をつくっている。
(宜野湾消防署、宜野湾市)



③ コンクリート、タイル、金属、ブロック等、素材の活用のあり方に工夫が見られる。
(那覇中央郵便局、那覇市)



④ 瓦屋根の使用により、地域の歴史を刻む館としての象徴性を感じさせる。
(県立公文書館、南風原町)